

⑥ 浄魂之塔



新垣では、集落周辺や農地、山野で見つかった身元不明の遺骨を、集落北側にあったイクサミチの壕に安置した。1957（昭和32）年

に区の有志が周囲をコンクリートで囲った。これが「浄魂之塔」の前身である。遺骨はその後火葬され識名の中央納骨所に移されたが、その一部を新垣に残した。1967（昭和42）年、南方同胞援護会の助成で沖縄県遺族連合会が集落西側の埋没壕近くに現在の浄魂之塔を建立し、納骨堂から分骨した遺骨を塔の中に納めた。現在、字ではジュールクニチー（旧暦1月16日）、シーミー（清明祭）、慰霊の日、タナバタ（旧暦7月7日）に塔での祭祀を行っている。

所在地は字国吉833-1。県道7号線沿い、県営新垣団地入口バス停留所より東へ約80%。県営新垣団地集会所より西約20%。

⑦ 平和の塔



喜屋武では集落周辺や海岸近くに散在した遺骨を共同作業で収集し、1952（昭和27）年、名城ビーチ南側のミジハイと呼ばれる場所の近くに、「平和の塔」を建立し遺骨を納めた。1969（昭和44）年3月、南方同胞援護会の助成を受け沖縄県遺族連合会が現在の場所（喜屋武岬）に塔を移した。毎年6月23日には字主催の慰霊祭を行っている。

喜屋武1156-2。近くに喜屋武灯台がある。喜屋武コミュニティセンターより南約1.6km。

④ 萬華之塔



終戦後、真壁一带には膨大な遺骨が散乱していた。地域の人々が共同作業で遺骨収集を行い、1951（昭和26）年集落の北側に納骨堂を建立し、遺骨を安置した。箱形の納骨堂の上には塔名を記す碑が建てられた。碑文のないこの慰霊塔は、真壁の人々の浄財によって建立されたもので、塔の手前に立つコンクリートの壁には寄付者の氏名が刻まれている。納骨堂の中には現在も無名の戦没者が眠る。毎年6月22日に字主催の慰霊祭を開催している。

真壁1292番地 三和中学校より北へ約500%。JAおきなわ集出荷場真壁支店の道向かい。近くにアンディラガマがある。

⑤ 南北之塔



真栄平集落の後方、耕地整理の進んだ畑地の一角にある。激戦地であった真栄平では、屋敷内や道路、田畑、山野に散在していた身元不明の遺骨を住民が収集し、集落後方のアバタガマに納めた。人々はこのを真栄平納骨堂と呼んだ。収骨された遺骨は数千体に及んだという。字では永久的な慰霊塔を建てることを決定し、1966（昭和41）年各世帯からの分担金と内外からの寄付金によりこの場所に「南北之塔」を建立した。毎年6月23日は字主催の慰霊祭を行っている。

所在地は真栄平872番地。県道54号線沿いの真栄平バス停留所より集落後方へ約500%。周囲には「捜索24連続慰霊之碑」などの慰霊碑や墓石などが多数建立されている。

② 萬魂之塔



激しい戦闘が繰り広げられた国吉では、収集した遺骨を集落南西側のガママープと呼ばれる壕に集めていたが、1955（昭和30）年に集落南東約600%の現在地に「萬魂之塔」を建立し遷骨した。4,000余人の戦没者が合祀されている。箱形の納骨堂の上には塔名を記した碑が建つ。文字は屋号「仲加治屋地」の比嘉喜一さんによるもの。老朽化により1995（平成7）年に改修した。毎年6月23日に字主催の慰霊祭を開催している。

所在地は字真栄里1837番地。国吉集落の南東約600%。近くに白梅の塔や南禅庵寺がある。

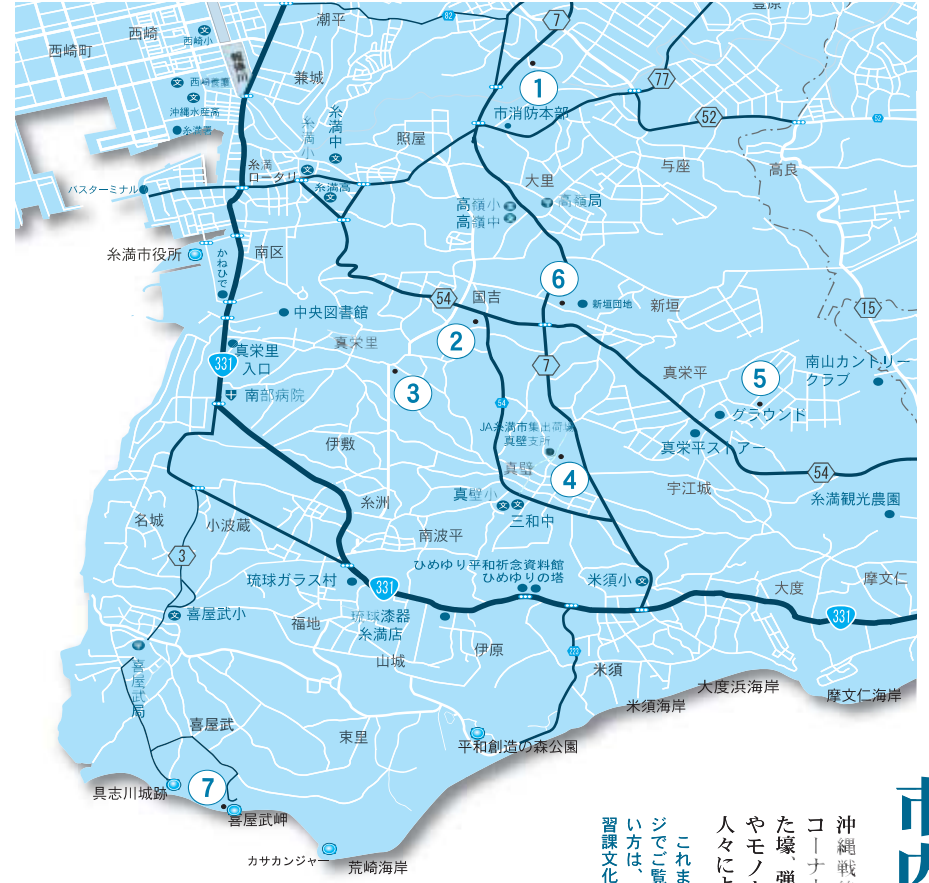
③ 栄里之塔



真栄里では集落周辺で見つかった遺骨を、集落の北西側のアーマーマー近くの壕に安置した。ほどなくして

壕が遺骨で一杯になったので、1952（昭和27）年集落の東のシー草原にコンクリートブロックで納骨堂を建立。これまでに収骨した遺骨を火葬して納骨堂に納め、納骨堂の側に「栄里之塔」と刻まれた石碑を建てた。遺骨はその後那覇市識名の中央納骨所に遷され、慰霊塔は1968（昭和43）年3月に南方同胞援護会の助成を受け沖縄県遺族連合会が改修した。毎年5月30日に字主催の慰霊祭を行っている。

所在地は真栄里1152-1。市道田原線沿い、田原入口バス停留所より南西約170%。「バックナー中将戦死之跡」より東南約60%。



① 華守之塔



座波では1953（昭和28）年12月末に、集落から離れた報得川流域の前原の地に慰霊塔を建立し、集落内や農地から出た遺骨を安置した。同塔には560人の戦没者が合祀された。「華守之塔」という塔名は当時の兼城中学校の校長だった安仁屋政栄氏が名付けたという。同塔に納められていた遺骨は1965（昭和40）年2月に那覇市識名の中央納骨所に遷された。転骨後も塔は残されている。

所在地は座波846番地。仙原バス停留所より東約260%。近くに豚舎や山羊舎がある。

沖縄戦終結からもうすぐ65回目の夏を迎えます。毎年このコーナーでは、沖縄戦で住民が避難したガマや軍隊が構築した壕、弾痕のある建造物など、沖縄戦の記憶を今に伝える場所やモノを紹介してきました。4回目の今年は、戦後地元の人々によって建立された慰霊塔をとりあげます。

これまでの過去3年分の「慰霊の日特集」記事は糸満市のホームページでご覧になります。沖縄戦における糸満市域の状況をお知りになりたい方は、『糸満市史 資料編7 戦時資料上巻』、『同下巻』（生涯学習課文化振興係で発売中）をお読みください。

市内の戦跡を歩く4